

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★タフアイ★  
We Exhaust Racing  
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTREXAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YOKOHAMA

TOKOH

WedsSport  
Racing Team  
with BANDOCH

2009 SUPER GT KEIHIN SUZUKA 2&4 RACE



- 開催日:2009年4月18日～19日
- コース:鈴鹿サーキット(全長5.807km)
- 天候:<予選>晴 <決勝>晴
- 路面コンディション:<予選>ドライ <決勝>ドライ
- チーム:WedsSportRacingTeam with BANDOCH
- 車名:ウェッズスポーツIS350 <GT300 ゼッケン19>
- ドライバー:織戸 学 / 片岡 龍也
- 監督:坂東正敬
- 観客動員数:予選22,000人 / 決勝35,000人

改修が行われた新生鈴鹿サーキット、ここでSUPER GT第2戦が行われる。コースの西側は路面も舗装され各チームのタイヤ選択が難しくなる。今回、初の試みで2輪レースとの併催で観客の楽しみも2倍となった。

4月18日(土)

フリー走行 8:25~9:55(混走)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温16度 / 路温20度

前回の岡山とは逆で片岡選手のセットアップでフリー走行を始めることになった。今回はレース前から片岡選手の予選と決まっていた。

他のチームにより強いパフォーマンスを見せる作戦だった。

今回のマシンは、開幕戦で優勝したため、40kgのウェイトと性能調整の見直しで性能調整分35kg、と今回からの性能調整で10kg、昨年より85kg重くなっている。

ウェッズスポーツIS350は昨年デビューで鈴鹿は夏の鈴鹿1000kmを走っているが、新車ならではのマイナートラブルが出てしまい、データとしては不十分だ。

予選に向けて、マシンのセットアップとタイヤ選択とテストメニューは多い。

まずはタイヤ選択のためにピットイン、ピットアウトを繰り返す。

マシンセッティングは、ほぼ決まっているようで細かい調整のみで走行を続ける。

片岡選手は20LAP走行し、ベストタイムは2分06秒610を記録、この時点でGT300クラス5番手となる。その後、織戸選手に交替し確認作業とタイヤの選択を繰り返す。

織戸選手は26LAP目に2分08秒716を記録し、自己ベストとなる。

積んでいるウェイトもそうだが、今回は慎重にマシンセットを煮詰めている。

GT300クラスで午前フリー走行は5番手となり、トップタイムは2号車プリヴェ アップル 紫電の2分05秒407、2番手は81号車ダイシン アドバン Ferrariの2分05秒412、3番手は33号車のハンコックポルシェ、2分06秒353となった。

全く予想のつかないGT300、しかし今回はストレートスピードの速いマシンが有利に立った。予選は厳しい状況に置かれそうだが、チームは表彰台を目指す為、予選上位を目指す。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★☆☆☆☆  
Win Element Racing  
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTEC

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YOKOHAMA

TOKOH



4月18日(土)

予選1回目 11:20~11:50(混走) / 11:50~12:00(GT300)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温21度 / 路温30度

最初のスタートは織戸選手。

タイムアタックを行おうとしたとき、赤旗中断となる。

約10分の赤旗のあと、再スタート。

5LAP目に2分07秒102を記録し3番手になる。

その後、片岡選手に交替し2分06秒437を記録するがこの時点の順位は6番手。

午前中のフリー走行に続き、ここで赤旗中断となる。これでアタックする回数が減り、トップタイムは33号車ハンコックポルシェで2分04秒206、2番手は2号車プリヴェ アップル 紫電で2分05秒094、3番手、46号車エスロードMOLA Zで2分05秒957と記録更新していく。

6番手タイムでスーパーラップ進出が決まったが、5秒前半の攻防戦となりそうだ。

スーパーラップ 14:30~

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温20度 / 路温30度

予選1回目6番手の為、走行順は3番目になる。

最初の走行は予選1回目8番手の43号車 ARTA Garaiya、2分06秒869を記録し、これが基準タイムとなる。2番目の走行、7号車M7 MUTIARA MOTORS両宮 SGC 7で2分06秒570を記録し、暫定1位となった。今回のスーパーラップは片岡選手が担当する。

タイヤは明日の決勝スタートを考えて硬いタイヤでのアタックだった。

片岡選手はウェッズスポーツIS350をミス無く走らせるが、2分06秒754を記録し、暫定3番手となる。速さに定評のあるウェッズスポーツIS350でも開幕戦優勝のウエイトがここで効いてきてしまった。4番手走行の11号車JIMGAINER ADVAN F430は2分06秒493を記録し3番手へ、その後、81号車ダイシン アドバン Ferrariが2分05秒379を記録しトップとなる。46号車エスロードMOLA Z、2号車プリヴェ アップル 紫電とスーパーラップは続くがタイム更新にはならず、最後のアタック、33号車ハンコックポルシェが2分03秒836という脅威のタイムを記録し、明日のポールポジションを決めた。

タイヤメーカーとして33号車ハンコックポルシェが脅威のタイムで

ポールポジションを獲得、全世界の4輪レースを見てもタイヤメーカーの

争いがあるのはSUPER GTだけであり、今後もタイヤ戦争が白熱するような

スーパーラップとなった。19号車ウェッズスポーツIS350は横浜タイヤをはいてタイヤメーカーのトップも目指していく。

明日の決勝は必ず表彰台にのるだろう。



WedsSport

LEXUS

TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★☆☆☆☆  
Win Element Racing  
北陸自動車レースグループ

アルファプロデュース

NUTEC

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOKOH

TOKOH

## 監督、ドライバーコメント

### 坂東監督

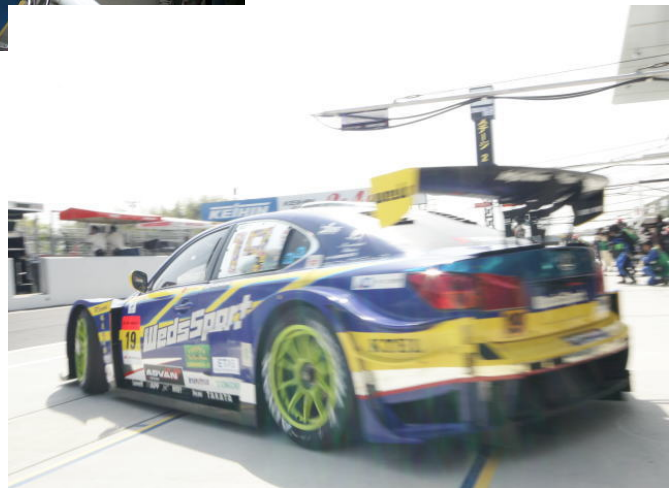
1回目6番手、満足です。スーパーラップはもう少しアグレッシブな方が見ていて楽しかったかな？やはりストレートの速いマシンはレースでも手ごわいと思います。明日はPITか作戦でなんとか上位陣についていければと思います。もちろん、最後の最後まで2連勝は狙っています。

### 織戸選手

予選は片岡選手で行くことが決まっていた。前回優勝分のウェイトと今回の性能調整分のウェイトが練習走行のときから効いていた。ウェイトを積んだ状態でのベストを出すこと、気温が上がることを想定したセッティングの両立を目指していました。スーパーラップは決勝を見据えて固めのタイヤでアタックに出てもらったが、残れたのは片岡選手の頑張りだと思います。

### 片岡選手

開幕戦を優勝した分のウェイトがマシンにどれくらいの影響を与えるのか？今回は予選をやらしてもらい一回目の予選は柔らか目のタイヤでスーパーラップに残ることが出来ましたがスーパーラップのタイヤは決勝のスタートタイヤになるため、レースを考えたチョイスで挑みましたが、自分的にはもう少し頑張りたかった。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOICHHAMA

★ウエーブ★  
Wave Element Racing  
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

JINS

AD アイシン開発

ETAS

INTREXAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOKOH

TOKOH



4月19日(日)

フリー走行 8:50~9:20(混走)

晴/ドライ 気温22度:路温27度

春らしい天気の中、午前中のフリー走行が始まった。

スタートは織戸選手、3LAP目に2分07秒289を記録、3番手のタイムとなる。

決勝に向けての路面温度とタイヤのエア圧を調整しながら走行を続ける。

片岡選手に代わり最終調整を行い、GT300クラス5番手のタイムで午前中の

フリー走行は終わった。ここまでの走行を見てみると、81号車ダイシン アドバン

Ferrariが6秒台を記録しトップタイムを出している。前回の岡山に続きFIA-GT車輛のポテンシャルの高さが伺える。

決勝 14:00~(52LAP)

天気:晴 / 路面:ドライ 気温23度 / 路温38度

19号車ウエッズスポーツIS350の戦略として、スタートドライバーは織戸選手、ドライバー交代は16LAP以降に行う。今年から、スーパーラップ進出したチームのスタート

タイヤはスーパーラップで使用したタイヤを使うレギュレーションになっている。スタート直前に2号車プリヴェ アップル 紫電がトラブルの為、ピットスタートとなる。

これで実質7番手スタートとなった。スタートは順調に7番手ポジションをキープする。しかし、トップを行く33号車ハンコックポルシェはマージンを築きつつ、7LAP目には7番手19号車ウエッズスポーツIS350と20秒以上のタイム差を作り逃げの体制になった。

その7LAP目に19号車ウエッズスポーツIS350は230km/hのスピードで130Rコーナーを痛恨のスピン、しかしコースにとどまっていたのでタイムロスとは約3秒となったが、1秒後ろを走っていた74号車COROLLA Axio apr GTに抜かれ8番手以後退する。

その後も織戸選手は懸命に追いつけるが、スピンの影響でタイヤを傷めてしまいタイムが上がらず、前を行く74号車COROLLA Axio apr GTとの差が開いていく。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★☆☆☆  
Win Effect Racing  
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

JMS

アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOKOH

TOKOH

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOICHHAMA

★☆☆☆☆  
Win Element Racing  
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

Jims

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOYOTA

TOKOH

22LAP目には9番手後から迫ってきた2号車プリヴェ アップル 紫電に先行されるが、23LAP目にピットイン、メカニックのすばやいピット作業で片岡選手を送り出す。各チームピットインのタイミングとなるが、近い順位を走るマシン、74号車COROLLA Axio apr GT、2号車プリヴェ アップル 紫電、26号車 UP START タイサンポルシェと差はない。前を行く2号車プリヴェ アップル 紫電は1LAP1秒速いタイムで走行し、離れていく。前を走る74号車COROLLA Axio apr GTに何とかついて行き、片岡選手も懸命にプッシュするがソフトタイヤのグリップは集会数的に限界を超えていた。この状態で終盤を迎えるが46LAP目にGT500マシンの大きなクラッシュの為、セーフティーカーが入る。しかし、残り3LAPのため、セーフティーカー先導のままレースは終了。



GT500クラスでは各所でバトルが繰り広げていたが、GT300クラスはトップ2の驚異的なスピードで逃げ切り、33号車ハンコックポルシェが優勝、2番手に7号車 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7が入った。19号車ウェッズスポーツIS350は予選と同じ8位という結果になった。マシンのウェイトが重い状態で3ポイントを獲得した。今年のウェイトを下ろせないレギュレーションではこの3ポイントが終盤戦のレースを有利にすることとなるだろう。

次戦富士レースは400kmの長丁場になる。レース戦略が鍵となるだろう。ポイントリーダーは7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7に奪われたがトップとのポイント差は3ポイント。

富士も過酷な戦いになるだろうがチーム一丸となって次の富士は表彰台を狙いに行く。

次戦富士レースは400kmの長丁場になる。レース戦略が鍵となるだろう。





WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

★☆☆☆☆  
Win Element Racing  
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTEC

JIMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YOKOHAMA

TOKOH

## 決勝後のコメント

### 織戸選手

決勝前に急遽タイヤの組み合わせを変えたのですが、マシンとのバランスが少し違う方向になってしまい、ペースが上がらずスピンをしてしまった。今回のレースとしては、今期初のドライレースとして今後やらなければならないことが見えてきたレースでした。8位でポイントは取れましたが、満足できるレースではなかったがポイントを取れたことはチーム力のおかげだと思います。自分的にはミスがあった走りでも悔いは残りましたが、次戦富士ではチーム一丸となって表彰台を目指したいと思います。



### 片岡選手

決勝は実質ドライの初レース。開幕戦は雨だから分かりませんでしたが今回はレースラップのレベルが低く次回のレースに向けてレース強いマシンに仕上げなければと課題が見つかりました。しかし、状況は苦しかった中でもしっかりチーム一丸となってポイントを獲得出来たことはチャンピオンシップを考えても大きな意味があると思います。また6キロ増えますが次の富士も全開で行きますので応援よろしくお願いします。



### 坂東監督

8番、ん・・・ドライのレースは今期初めてだったのでウエイトも積んでいますが、まだまだ改良しないとイケないのが現状ですね。レースに強いマシンとチーム力と・・・  
7号車のタイヤ無交換は凄かった。脱帽です。悔しいですね。今回はチーム力やマシンのセットアップをよりよくする為の過程だったと思います。ノーポイントではないのでシリーズチャンピオンには近づいています。  
2週間後ですが、富士でも活躍できるように頑張ります。



アルファプロデュース

### 予選結果

1	33	HANKOOK PORSCHE	2' 03.836
2	81	ダイシン アドバン Ferrari	2' 05.379
3	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	2' 05.414
8	19	ウェッズスポーツIS350	2' 06.754

### 決勝結果

1	33	HANKOOK PORSCHE	1:55' 31.677
2	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	0' 03.654
3	46	エスロード MOLA Z	0' 07.026
8	19	ウェッズスポーツIS350	0' 39.276

### チームランキング

1	7	M7 RE雨宮レーシング	32
2	19	RACING PROJECT BANDO H	29
3	43	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	27
4	33	HANKOOK KTR	23

### ドライバーランキング

1	7	谷口 信輝 / 折目 遼	26
2	19	織戸 学 / 片岡 龍也	23
3	43	新田 守男 / 高木 真一	21
4	33	木下 みつひろ / 影山 正美	20